

歴史が満ちる

# 飯盛城跡

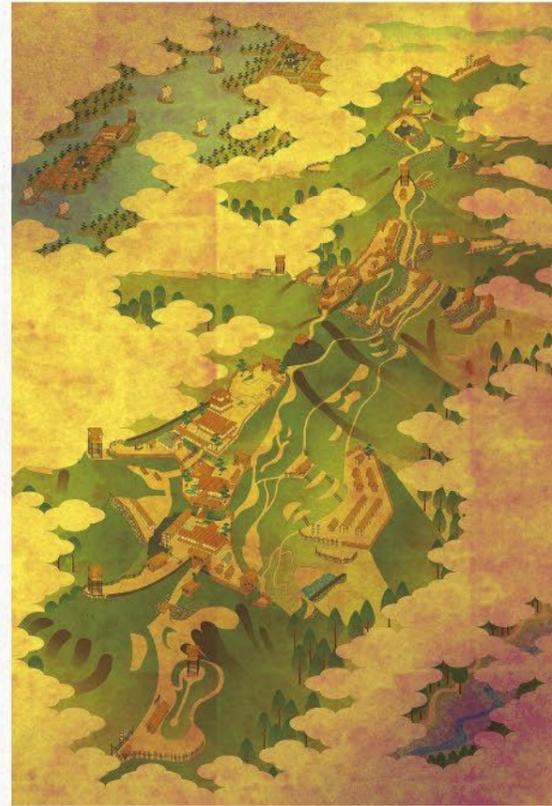
2017年 「続日本100名城」に選定

2021年秋 「国史跡」に指定

## 戦国の飯盛城

飯盛城は、大東市と四條畷市にまたがる標高約314mの飯盛山の山頂に築かれた、西日本でも有数の規模を誇る戦国時代末期の山城です。享

禄3(1530)年に木沢長政の居城として文献上初めて登場します。京都・奈良と当時の大都市界を結ぶ交通の要衝に立地することから、畿内支配の拠点として重要視されました。



飯盛城想像鳥瞰図 (作画:山本ソソビ/大東市、四條畷市、摂河泉地域文化研究所)

## 現代に残る飯盛城

飯盛城の往時の姿は山頂に残された城郭遺構からうかがうことができます。東西約400m、南北約700mにわたる城域には石垣や曲輪などの城郭遺構が良好な状態で残されています。国史跡指定をめざして実施した総合調査では、城域全体に石垣が取り入れられていたことが明らかに、発掘調査によって建物の柱を支える礎石が発見

され瓦が出土しました。この調査成果から、織田信長によって完成される高石垣や天守を備えた「織豊系城郭」に先行して、石垣・礎石建物・瓦の3つの要素を取り入れた城郭であることが明らかにになりました。戦国時代の築城技術を伝える貴重な遺跡としての歴史的价值が認められ、令和3(2021)年に国史跡に指定されました。



曲輪を取り巻く石垣



城郭の主要出入口だった虎口



尾根筋を断ち切って敵を遮断した堀切・土橋

### Filled with history Iimori Castle Ruins

Iimori Castle is one of the largest mountain castles in western Japan since the end of the Sengoku period. It is built on the summit of Mt. Iimori, which stretches over Daito City and Shijonawate City at the northern end of the Ikoma Mountains. In the Sengoku period, a samurai warrior, Miyoshi Nagayoshi, for the first time took over the levers of power around the Kyoto area, which was the ruling capital at that time. Since he used Iimori Castle as his residence, it became a political and cultural center.

The remains of Iimori Castle are well preserved, such as the stone walls and enclosed compounds. By the comprehensive research conducted with the aim of designation as a National Historical site, it was revealed that this was a whole citadel that incorporated three elements that included the stone walls, foundation stones, and roofing tiles. Recognized as a valuable archaeological site that exemplifies the castle construction skills of the Sengoku period, it was designated as a National Historical site in 2021.

## 織田信長に 影響を与えた武将 三好長慶

1522-1564

阿波国(現在の徳島県)に生まれ、戦国時代に初めて単独で首都京都を支配したことから、最初の天下人として評価されています。海外交易やキリシタンの保護を行うなど、先進的な政策を打ち出しました。

三好長慶像(大徳寺・聚光院蔵)

## 三好長慶と飯盛城

永禄3(1560)年、戦国武将・三好長慶は芥川山城(高槻市)から飯盛城に居城を移します。長慶は天文22(1553)年に足利将軍を追放し、戦国時代で初めて当時の「天下」である京都を支配し、名実ともに天下人となりました。長慶の権力は最盛期には四国、瀬戸内海、日本海にまで及びました。また、強力なリーダーシップのもと、先進的な施策を打ち出し、飯盛城は政治・文化の中心地になりました。

## 三好長慶の歴史小話

### 連歌の会

天下人となった三好長慶の居城・飯盛城は三好政権の中枢としてだけでなく多彩な文化人が集う文化交流の場にもなりました。文化人としても一流だった長慶が特に好んだのは連歌でした。連歌は複数人で和歌の上の句と下の句を交互に詠み連ねる詩歌の一種で、室町時代から戦国時代にかけて流行し、特に戦国武将たちに好まれました。その代表人物が長慶で、永禄4(1561)年には当代一の連歌師紹巴をはじめ一流の連歌師を城内に招いて連歌会「飯盛千句」を主催し、その翌年にも「道明寺法楽百韻」を催しました。



### 茶の湯

長慶は茶の湯にも造詣が深く、茶人としても一流でした。飯盛城跡の発掘調査では、茶の湯の道具も出土していて城内で茶会が催されていたことがうかがえます。



### キリシタン

天下人・長慶のもとにはキリシト教の宣教師も政治的な庇護を求めて頻りに足を運びました。長慶は領内でのキリスト教布教を許したため、当時、ヨーロッパで制作された東アジアの地図には飯盛の地名が記されました。家臣の中から73名がキリスト教の洗礼を受け、領民の多くもキリスト教に改宗し、「河内キリシタン」と呼ばれるまでにりました。

